

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		こども支援事業所にじいるbuzen		公表日		R 7年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動別に部屋を使うことができています。十分なスペースはある。	十分なスペースはあるが、開放的なスペースや個別のスペースが欲しい。高学年に対しての配慮が必要。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準の人数が配置されている。	サービス提供時間中の送迎など保護者は規定人数を把握していないため、十分な説明が必要。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関にスロープはあるが、小さな段差はある。来館者の流れを考えた環境になっている。部屋の環境(音が響く)は、特性に不適切。部屋が番号で分けられ、それぞれ何をやる部屋かわかっている。	来年度は移転の予定があり、環境がさらに整う。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動別に部屋が分かれている。集中できる部屋がもう一つあるとよい。敷きマットの下が気になる。掃除を行っている。	全部屋を子どもたちが使用しているため、家族支援相談など保護者の方が来た際に、部屋を臨時で作ることがある。来年度は移転の予定があるため、環境が整う。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋を設けており、クールダウンできる。子どもの申し出があれば、使用可能になっている。	静養室になっている部屋の音が響くことがある。使用目的の環境には合っていない。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員会議や朝礼で話し合いの時間が確保されている。記録に残し、共有している。PDCAサイクルの参画がどれに当たるかはわからない。	業務改善のための意見等を出していったが、評価や振り返りが不十分であった。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		掲げている。	意見が出た内容については、早急な対応を行う。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議にて実施。朝礼のときなど話し合いを行っている。	事業所での話を上長に相談し、業務改善につなげている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価は行っていない。	今後も行う予定はない。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内では月に1回、法人内では定期的に研修会が開催され、受講している。	法人で行う全体研修の参加や自主研修の動画研修、事業所での研修など行っていく。		
適切な支援の指	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにより公表されている。	11月にホームページに公表している。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者と話し合い、行っている。ケース会議の実施や家屋支援時の保護者のニーズを踏まえて、課題を分析し、個別支援計画を作成している。	ニーズを踏まえた個別支援計画を作成し、進捗状況等を保護者に知らせていく。		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員が共通理解をするために会議等で話し合いの場を設け、みんなで検討している。計画前の意見交換や作成後の確認が行われている。	ケース会議や担当者会議を行う中で、情報を共有できるようにしている。		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画を共有し、計画を確認しながら支援を行っている。常時見えるところに掲示している。計画に沿った支援を踏まえて、計画にとらわれず、利用児にあった支援も考えていけるとよいと思った。	個別支援計画をもとに課題を考えたり、支援を行う。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		確認することができている。	形式的にアセスメントすることや日々の様子から質問を交え、アセスメントすることを心がけています。		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		具体的な内容がわかりやすく表記されている。個別支援計画に盛り込み設定されている。	ガイドラインに沿って、支援内容を立案しています。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎日の活動プログラムは短い時間で振り下げていかないといけないので、個別の努力も大事だと感じる。チームで話し合い、改善すべきことがあれば、修正している。	5領域の内容や個別支援計画に沿った計画を立てている。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎回、異なる担当者が案を出しているため固定化しにくい。1ヶ月ごとに活動内容を考えて、その日の活動は当日シュミレーションしている。	活動の選択ができるようにしている。		

こども	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別活動が主になっている。個別と集団の活動に参加できるように計画を立て、支援している。個別支援計画に沿って支援している。	集団活動の中で、個別対応などが多くなってしまふ。集団で取り組むことを継続して行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝礼時に確認している。個別と集団活動の内容や職員の配置などの役割分担を確認し、支援している。	話し合いの時間を短時間で終え、支援の準備等が行えるようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	その日の報告や振り返り、次の日の朝礼で情報を共有している。長期休みの時は、終了後に行っている。	その日の出来事について振り返りを行い、情報共有を行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	HUGに記録し、話し合つて次の支援に繋げている。記録を取ることは徹底しているが、検証、改善にはつなげていない気がする。	支援記録の記録の仕方を統一できるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	個別支援計画の状況を評価し、見直している。	進捗状況や評価内容などを適切に伝え、確認し合えるようにする。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	外に行ったり、室内などで組み合わせで行っている。地域交流の機会がなかなかできていない。	「地域交流の活動」がなかなか進められていないので、地域の施設を利用する中で経験体験を増やしていきたい。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	自己決定する力を育てる支援にもっと展開出来たらよい。活動の変更やキャンセル等の申し出があった時は、理由を尋ねて思うよう支援している。選択活動はポイント制で行い、自分は何ができるかを考えて決めている。判断を任せてもらっている。遊びの選択ができるようになっていく。	家族支援相談と一緒に参加し、目標について自己決定できるようにする。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	管理者、児童発達支援管理責任者が参加している。	児童発達支援管理責任者が中心に会議に参画している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の福祉課や相談支援員、関わる医療機関に対して情報共有等の連携を行っています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	毎月、下校時間などの共有を行っている。特定の児童しかできていない部分もある。	毎月下校時間の確認を行い、情報共有を行う。また気になることがあれば、その都度伝え合うようにしています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	必要時、情報を共有している。	必要に応じて行いますが、現在の小学校との情報共有を主に行っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	今まで障がい福祉サービス事業所等へ移行した児童はいませんが、事業所が情報の提供を求めれば応じる。移行事例がまだない。	まだ障がい福祉サービスへの移行児童は出ていませんが、移行の場合は安心して通えるよう情報を共有します。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	自立協議会に参加し、学習会や助言をもらっている。	事業所に対しての研修会は行っていないが、自立支援協議会に参加し、学習会などを行っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	児童館や地域の公園を使用し、活動することがある。公共の施設での偶発的な交流はある。交流はないが、公共の施設を利用時はある。	児童クラブ等の交流はできていない。児童館などを利用することはあるため、交流の機会も検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	自立支援協議会こども部会の参加をしている。	自立協議会こども部会に参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	家族支援を3か月に1回行い、伝える。特変など随時状況を記録し、保護者に発信している。	送迎時や電話等で悩み相談を受けるようにする。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		相談への助言等は行うが、家族支援プログラムとしては十分に行っていない。家族等に対する研修の機会を設けられるよう検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に説明を行う。	公表時には説明を行うが、定期的に知らせていくようにする。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	子どもを含めての家族支援相談を行っている。	家族支援相談と一緒に参加し、目標についてや要望などその場で聞き、作成している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	計画を説明し、内容に加えてほしいことなどを聞く。利用者、家族と内容の確認を行っている。	個別支援計画の説明を行い、支援内容の同意を得ている。
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	電話やメールでの相談もあり、その都度対応を行う。送迎時に行う。	子育てに対する相談のみではなく、保護者の相談ごとを聞いている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	保護者会はない	保護者会はないため、必要に応じては保護者会を検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情窓口を設置している。何かあった時は、すぐに上司に報告し対応する。迅速・適切に対応している	苦情に対しては真摯に受け止め、迅速に対応し、公表していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	ブログやHUGで発信している 毎月、ブログ更新を行っている。	子どもに対しては、わかりやすく事業所で掲示して知らせる。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	留意している 棚にしまい、鍵を閉めている。	名前の記載のある書類等は、扱いに十分に留意する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		紙面等で何度も知らせる。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	見学や法人全体による行事は行っているが、事業所独自では行っていない。	公共の施設を利用するなど、地域との交流が持てるようにする。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルや計画に沿って訓練を行っている。 保護者には契約時にマニュアルの種類など周知している。 マニュアルの整備はされているが、変更した内容を家族等に周知されていない。	利用手続きの際に説明を行う。いつでも提示できるようにしている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	計画に沿って訓練を行い、その時の問題点を改善する。 災害などの発生を想定し、定期的に訓練を行っている。	業務継続計画に沿った訓練を行い、振り返りと随時内容の更新を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		投薬簿の提出やてんかん発作等の有無などを確認し、対応の仕方等を共有している。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食事提供はないが、クッキングを行うこともあるので、医師の診断書等の提出はないが、保護者に確認を取っている。	食事提供はないが、食物アレルギーのある児童については、指示書を提出してもらう。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に沿っての研修や訓練を行う。行った振り返りをもとに次回の計画に入れる。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全対策等の周知が足りないため、行っていることをブログなどを通して伝えていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	朝礼で話し合いを行う。 委員会で話し、情報共有している。 なぜなぜ分析を行い、再発防止に努めている。	委員会により、毎月集計を行い報告をしながら再発防止に努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	研修を行っている。 定期的に研修に参加し、レポートを提出している。 動画研修でも行っている。	研修会に年2回以上参加するようにする。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	やむを得ない場合のみ、保護者の同意の上放課後等デイサービス支援計画に記載するようにしている。 現在決定した利用児がいない。	やむを得ない場合のみ、保護者に同意をもらい、行った内容などを記録する。また個別支援計画に記載がない場合は行えない。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人敬愛会 こども支援事業所にじいるbuzen		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 28日		令和7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 27日		令和7年 2月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スマホのアプリを使い、利用状況を適時知らせられること。また、連絡等時間を気にせず保護者とやり取りができること。	次の日に必要なことや持ち物等の連絡も個別に連絡ができる。	楽しみになる情報を流すことで、意識的にアプリを活用してもらえるようにする。
2	個別に合わせた活動や自立課題を立案している。	自立課題に飽きがこないように、自立課題の内容は変えずに種類を何種類か作って行う。	子どもたちが楽しんで自立課題に取り組めるように、本人の好きな物を取り入れて行っていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との交流や地域との交流ができていないこと。	コロナ期間で行っていなかったことがそのまま企画されずに なっている。	地域との交流を深めるために、地域の施設の利用を行う。 公園や図書館のみならず、地域にあるお店に買い物体験に行ったり、施設の見学などに行き、事業所を利用している児童を知ってもらおう。 保護者にも日頃の取り組みを見てもらう。
2			
3			